

JIFIC The Japanese Institute of Technology on Fishing Ports, Grounds and Communities

漁港漁場漁村研報



2011

Vol.

30

東日本大震災 特集号

巻頭言

- 01 ● 震災から半年、今気がかりなこと
- 02 ● 津波の教訓を風化させてはならない

特集

- 01 ● 東日本大震災による被災状況と漁業地域の復旧に向けて
- 02 ● 「漁業地域復興支援プロジェクトチーム」提言 漁業地域の復旧・復興に向けて
- 03 ● 被災地“発” ～震災から6ヶ月 今、思うこと～

Topics

- 01 ● 電気推進式漁船の導入に向けて
- 02 ● フロンティア漁場整備事業の推進に向けた調査研究 (その1)

学会・シンポジウム等への論文投稿・発表 (平成23年1月～8月)

第35回海洋開発シンポジウム

- 「連続静止画像に基づく島田川河川武における地形変動特性の分析検討」
- 「分岐した細長い海における副振動対策としての防波堤設置の効果について」

第14回日韓漁港漁場技術交流会議

- 「漁場整備を用いた水産資源の管理(瀬戸内海岡山県白石島の海洋牧場における事例)」

第6回 COASTAL STRUCTURE 2011

- 「DISASTER BY HIGH WAVES ON THE COAST OF NYUZEN FISHING PORT, IN FEBRUARY, 2008」

編集後記

東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

私ども(財)漁港漁場漁村技術研究所は、これまで漁港・漁場・漁村において、その地域に働く・暮らす方々とともに、漁港計画や地域振興計画に関する調査・研究を行ってきました。今回の被災地においても調査・研究を行ってきた場であり、早期の復旧、復興に向け、研究所一体となって取り組んでまいりたいと考えております。

3.11、私は札幌に出張しており、強い揺れの後、テレビに映し出された光景は、直ぐに理解できるものではなく、何が起きているのか、何も考えられずに、ただ呆然と映像を見ているだけでした。そして、1ヶ月後、被災地に海上から調査に入りました。海上から漁港施設等の被災状況は確認でき、そして、ある程度は予想していた状況だったのですが、上陸し、漁港の背後、防潮堤の向こう側に立ったときに、再び3.11のテレビ映像と同じ、茫然自失に陥っていました。「まち」がなくなったと。

あれから、6ヶ月が経過した9.11、この日はアメリカの同時多発テロから10年を迎えた日でもありました。そして、2001年9月11日、アメリカ同時多発テロ後、世界中に配信された一つの詩が再び取り上げられるようになりました。

「最後だとわかっていたのなら(作:ノーマコーネットマレック、訳:佐川睦)」です。テレビや新聞等で取り上げられているので、多くの方々にご存じと思います。この詩の言葉に「若い人にも 年老いた人にも 明日は誰にも 約束されていないのだということ」があります。

これまで、私自身も防潮堤等の設計や減災計画に携わってきた立場から、本当に自分が防潮堤を越える津波がくること、そして、逃げることの重要性を十分に理解していたのか、反省すべきことは多々あります。これらを踏まえ、復興にあたっては、少なくとも津波に対し、誰にも明日を約束できるような地域となるよう取り組んでいきたいと考えております。

なお、ここで紹介させていただいた書籍は、「最後だとわかっていたのなら ノーマコーネットマレック・作、佐川睦・訳 発行/販売 サンクチュアリ出版 ISBN 978-4-86113-906-2」です。(H.H)

みんなの研究

私達は、皆様と一緒に、漁港・漁場・漁村の未来(豊かな沿岸域環境の創造)を考えたいと思います。

当研究所は漁港・漁場・漁村に関するさまざまな要請に対して、研究・開発など、幅広い活動を進めるため、農林水産大臣所管の「公益法人」として設立されました。新しい技術の導入と実用化を図り、さらに、漁村の生活や環境問題についても考察し、これらの成果を多くの漁港・漁村関係者に普及するなど、「みんなの研究」として新たな課題に取り組んでいます。

JIFIC Vol.30 2011 漁港漁場漁村研報

財団法人 漁港漁場漁村技術研究所

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-6 トナカイタワーズ9階
TEL.03-5833-3220 FAX.03-5833-3221
<http://www.jific.or.jp>

